

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 28 章 1~10 節>

- ①「恐れることはない。十字架につけられたイエスを探しているのだろうが、あの方はここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。」(5~6)

キリスト者は、主イエスの復活によって、ただ死んだ人間が生き返ることを信じているだけではありません。「あの方」すなわち「十字架につけられたイエス」が復活されたこと、その意味を知らされ、感謝しつつ信じているのです。主イエスは十字架につけて殺されました。しかし、その殺された主イエスが復活されたのですから、殺した人間の罪は無きに等しいものになったのです。キリスト者はこの出来事に、「私はお前たちの罪を赦す。そのために私は御子を復活させる。このことを理解せよ」という神様の声を聞き取り、信じて生きる者となったのです。復活なんて普通では信じられません。しかし、罪を赦すというということも考えられないことです。神様はそれをなして下さったのです。罪によってもたらされた死が神様によって打ち破られたのです。神様の破格の恵みの出来事です。「100000年後の安全」という廃棄物処理場の映画を見ました。その中で、「放射能は透明で無臭なので五感では感知できない」と医師が語っていました。人間が簡単に分かったと言えないのはイエス・キリストによる神の愛も同じです。しかし、自らの有限性を謙虚に思い、この神の愛を分かりたいと思う方を神様は喜んで下さることでしょう。

- ②「イエスは言われた。『恐れることはない。行って、私の兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこで私に会うことになる。』」(10)

復活した主イエスが弟子たちに指示を与えられます。新しく生きるための指示です。キリスト者はただ死人の復活を信じているだけではありません。そのことが意味する二つ目の内容は、キリスト者はその時から（そのことを信じた時から）新しい人生を歩み始めるということです。ただ復活できるというだけなら、その後生きるこの世の人生はこれまでの延長に過ぎないでしょう。しかし、キリストの復活によって知らされたことは、「私たちは神様によって罪赦された存在なのだ。このことを知ったからには、この神様を見上げ、この神様に聞いて生きよう」ということに繋がって行くのです。私たちは、用意された神の国を楽しみにしつつ、この世を神様が望まれることに取り組みながら生きていく者となって行くでしょう。サッカーのアジアカップで決勝点を挙げた在日4世の李選手が、韓国の記者の「あなたは日本か韓国か、どちらの側に立つのか」との質問に、「日本と韓国、二つの故郷を持ってはおかしいですか」と答えたのが印象的でした。「我らの故郷は天にあり」とヘブル書にあります。キリスト者は神の国という先に待つ故郷を思いつつ、しかし、この地上の世界も神の喜び給うものとなるために生きるのです。ハーフではなくダブル、二つの世界を知って生きる者であることの恵みを思いましょ！